
黒い刃～異世界冒険記～

隣のラーメン屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い刃々異世界冒険記

【Nコード】

N1546M

【作者名】

隣のラーメン屋

【あらすじ】

満月の綺麗な夜。

殲滅屋の青年、御神楽 瞬夜は依頼を終わらせてさっさと帰ろうとした矢先、突如出現した召喚の魔法陣に足を踏み入れてしまい…！
テンプレ異世界召喚ファンタジーここに開幕！

主人公最強モノで、主人公は召喚前からチートです。

序章：神殺しの殲滅屋（前書き）

どうも、となラーです。

調子に乗って二作品目の連載です。

文法などがおかしいかもしれませんが、ご容赦を…

序章：神殺しの殲滅屋

一閃

少年が放った、とある領域に到達せし一太刀は、一拍の間において彼の存在の胸に一筋の赤い線を引く…

銀色に輝く満月が、闇の帳を優しく照らし出している真夜中。

とある霊山の頂上で、ある少年とある存在との長き死合に決着が着こうとしていた。

片方の少年は刀を抜き放った体勢で静止しており、体の至る所に大小様々な傷をつくり、足下には多量の血溜まりができています。

相対する見目麗しい青年の姿をした存在は、対照的に胸の赤い線以外に目立った傷は無く、尊大に己に牙を剥いた若き獣を見下している。

すると、突然彼の存在は口角を吊り上げ、美しくも獰猛な笑みを浮かべる。

その笑みは賞賛の笑み。それも、敗者の健闘を讃えるモノではなく、己を打ち負かした者への祝福の笑み。

『負け、か…フ、フハハ…この我が…森羅万象全てを裁く存在であるこの我が…まさか人間の童に負けるとは……』

空間全体から響くような声でそう言い、彼の存在は楽しげに笑う。

そして次の瞬間、胸の赤い線から淡い光の粒子が吹き出る。

『しかし不思議と不快感は無い…むしろ清々しい程だ…それ程まで

に、我は見事に負けたということか…』

光の粒子は止まることなく天に昇っていき、それに比例するように、彼の存在の体の輪郭が揺らいでいく。

少年は倒れそうになるも、片手に持っていた鞘を杖代わりにして何とか踏み止まる。その間も視線を彼の存在から外さない。

その健気にも見える少年の姿に、彼の存在は更に笑みを深める。

『恥などない…むしろ誇らしく思うぞ…うぬのような素晴らしき者に負けたのだ…誇りこそすれ何を恥じようか…！』

謳うように、自己陶醉しているかのように、彼の存在は仰々しく言葉を紡いでいく。

しかし、その間も体の輪郭はどんどんと失われていく

『さて、口惜しいが、どうやら別れの時が近いらしい…
我を…この天罰神を破りし証を授けてくれよう…』

彼の存在…天罰神は名残惜しそうに呟くと、人差し指を少年の額に突きつける。

すると、その指から金色の光が流れ、少年の体をやさしく包み込んでいく。まるで少年を祝福するかのように

『私の権能を証として、我を打ち破りし褒美として、うぬに手向けよう…』

我に勝利し、我が最強の権能^{チカラ}を得たのだ…是から先、他の誰にも負けることを許さぬぞ？』

そう言うと、徐々に存在が薄らいでいくにも関わらず、天罰神は楽しげに微笑を浮かべる。

少年が友人と遊んだ帰り際に「また明日！」と言つかのように…

『さらばだ、強敵よ…時を巡りて、いつか再び合間見えようぞ…！』

少年は、そんな子供のような無邪気な笑みを浮かべる天罰神に、不敵に微笑み返す。

「…お前と再び会うまで、俺は誰にも負けないと我が愛刀に誓おう…故に、また会おう友よ…」

少年が漆黒の刀を掲げながら呟くと、天罰神は満足そうにニヤリと笑い、そのまま光となって天へと還っていった。

この日、少年は人を超越せし存在…『神殺し』となった…

そんな、人知れず行われた超常決戦から暫くの時が流れた。

時は雲一つ無く星と満月が冷たく輝く深夜。都会で見えることはもう叶わないであろう、見るモノを魅了する満天の星空の下。その美しい空とは逆に、地上の山の中では凄惨な光景が繰り広げられていた。

…木々は薙ぎ倒され、地面は抉れ、岩は粉々に吹き飛ばされ、辺り一面に質量兵器によるものと思われる爪痕が深々と刻まれている。そんな中、その中心で穏やかに仮眠を取っている者がいた。

その者は血塗れの漆黒の長刀を肩に掛け、比較的無事な木に凭れ座った体勢で規則正しい寝息を立てている。

全身黒ずくめ、黒いロングコートにフードを被り、その顔には仮面が着けられている為、顔は確認できない。

「……夢、か……」

不意にその者は目をゆっくりと開き、空を見上げながら、被っていたフードと仮面を外す。

その仮面の下から現れた、絶世の美女と見間違える程に見目麗しい黒髪長髪の青年、現在の偽名、闇裏^{あんり}、本名、御神楽瞬夜^{みかくらしゅんや}は物憂げに呟く。

「随分と懐かしい夢だ……そうか、彼の者と殺り合っただけかもう二年と経つのか……」

瞬夜は懐かしげに目を細め、2年前と同じ銀色の満月を見た後、緩慢な動きで立ち上がる。

そして、肩に掛けていた汚れ一つない体とは対照的に、血にまみれた身の丈程もあるであろう、鍔の無い長刀を握むと、それを軽く振るい、血を払う。

その血化粧の下から表れたのは、刃紋は霞のように朧気に揺らいでいるかのような乱れ刃。

月の光を喰らっているかの如く、輝くことのない闇よりも深き漆黒の刀身。

それは彼の一心同体の愛刀にして狂気に包まれし妖刀。

銘を『夜霞^{よがすみ}』

それを携える彼の周りの景色は真っ赤に染まっている。

血。依頼で殲滅した人間たちの生命の液体。

そして、彼を囲むようにできている血の海の中に、歪な形をしたモノが地面を覆うほど多く存在している。

それは無残な骸。優に三桁を超えるほどある、文字通り屍の山。

彼はそれらを数秒だけ眺め、再び視線を夜空に移す。

月明かりに照らされる、血にまみれた刀を携える穢れなき者。
その妖しげな美しさを放つ青年は溜め息を一つ吐き、夜霞を鞘に納める。

「何はともあれ、依頼は完遂…早々に帰って月を肴に酒を飲むとしよう……」

そして、誰に謂うでもなくこれからの予定を呟き、長居は無用と踵を返す。

すると、突如足元から魔法陣が浮かび上がる。

「む？」

突然の出来事に思わず声が漏れる。

次の瞬間、魔法陣から眩い光が溢れ出し、その光が収まる頃には、彼は今日この世界から姿を消していた……

序章：神殺しの殲滅屋（後書き）

ハイ、というわけで二作品目は異世界召喚モノです。

主人公が一作品目同様にチート性能なのは、完全に作者の趣味です。今回は微妙にカンピオーネみたいな感じになってしまいました。が、この作品はカンピオーネ関係ありません。

天罰神なんて神様存在しませんしね…

某炎髪灼眼さんの契約者である天壤の業火さんはともかく…というか、あれは人間じゃ絶対勝てんでしょうぜ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1546m/>

黒い刃～異世界冒険記～

2010年10月10日02時13分発行